

道標ない旅

自分も人も大切に

～思いやり
・チャレンジ
・しなやかな心～



令和3年度 第28号
2021.11.30発行
葉山町立長柄小学校
校長 益田孝彦
Tel. 046-875-6860
Fax. 046-876-0682

<http://www.town.hayama.lg.jp/nagae>

◆◆ 第2回学校関係者評価委員会が開かれ、学校評価を行いました。 学校中間評価パート1 ◆◆

今回も、皆様からのアンケート結果等をもとにして、学校運営方針である

- (1) 新しい時代に必要な資質・能力を育む学校
- (2) 豊かな心を育み、信頼で繋がった学校
- (3) 地域を愛し、地域から愛される学校

と、(4) いじめ防止に向けた対策について、その成果についての検証を行っていただきました。例年にも増して活発な意見交換がなされましたので、その結果を2回に分けて紹介したいと思います

重点目標1. 新しい時代に必要な資質・能力を育む学校

【自己評価結果】

全般的なことを言えば、三者(教職員・保護者・児童)とも「新しい資質能力を育む」という点においては、前向きな評価をし始めたと感じられる。教師が「主体的対話的で深い学び」を少しでも意識するようになってきていることや、児童が「話し合う活動をよく行っている」と、コロナ禍においても重心値の向上が見られているところが証左となると考える。課題は、「小中連携を意識した9年間を見通した教育課程の編成」にまで意識が向いていないことと考える。コミュニティ・スクール化を契機に意識改革を図っていきたいと思う。



【学校関係者評価結果】

- ・話し合う活動に観点をおいているが、時代を反映したメールとかでは無く、直接顔が見える会話は大事だと思っている。話しあうことを通した成長が大切で、何十年後かに違いが出るだろう。9年間あると思うより、1年1年全力を尽くしてほしいと願う。
- ・話し合うことはとても難しいこと。話せる人は出来るが、話すのが苦手な子にどう話させるようにしていくのか、学校の取り組みを知りたい。また若い先生で子どもの就学前の様子が分からない方もいると思う。保育園と連携して研修に来て頂けるとつながって良いかと思う。
- ・若い先生は見えない子どもの育ちの時期については、想像力で補わなければ行けないと思う。少なくとも多くの先生には担当する6年間についてはしっかり理解して、チームとして子どもの育成に励んでほしい。
- ・評価力の向上という評価規準があるが、「教える授業」から「育む授業」を目指す中で、どんな評価になっていくのでしょうか。→いわゆる「知識・技能」面でどういった結果だったかを伝えるだけでなく、その結果に至るまでに「思考力・判断力・表現力」面でどんな力を発揮していたのかとか、「学びに向かう力・人間性」面で日常生活の改善につながる力や生涯学習力のような要素の、全部で3観点で評価しなければならなくなっています。
- ・児童の質問7は教師と児童の傾向が一致しているが、児童質問8と6は、児童の意識と教職員の意識の乖離が見られる。おそらく先生方が、「話し合いの質自体を、もっと高めていきたい」という強い思いからの、意識の差が出ているのではないかなと思った。
- ・新しい時代に対応できる教育も必要だとは思いますが、真似ばかりであったり、アメリカナイズでない、人間の器用さ等の「人としての良さ」を活かした教育にも目を向けて行ってほしい。
- ・教師教育、教師の育成も大事なんだろうなと思う。
- ・新しい時代にキーワードとなる「育む授業」「主体的対話的で深い学び」「新しい時代に必要な資質能力」といった語句の解説を「学校だより」で是非伝えてほしい。
- ・(5)情報機器について、教職員のABを選んでいた人数が10月で後退している。ICTへの期待として想像していたことと、ICTが実現することが違ったのかなと感じる。まだ定規のような普段使いのツールにはChromebookがなっていないようだが、子どもはどんどん先を行くので先生方もサポートを受けながらも、先を見通したバトンタッチが出来るようチーム力を発揮してほしい。

重点目標2. 豊かな心を育み、信頼で繋がった学校

【自己評価結果】

重点目標2は、今年度最も改善状況の良い、確かな手応えのある評価結果が得られたと判断される目標である。個々に見ていけば、向上した指標には入れ違いも見られるが、三者三様に、学校生活に対し前向きな評価を感じ取ることができる。

核となる児童において、児童が前向きな気持ちで学校生活を送り、前向きな気持ちで教師とタッグを組んで生活している様子が、教師には実感として、保護者には見えないながらも予感させるものがあると考えられる。次年度以降も、こういった評価に落ち着くよう学校経営を進めていきたい。



【学校関係者評価結果】

- ・この項目に関しては、子どもたちがコロナ禍においても、学校での生活が落ち着いていて、学校という居場所で過ごせている良さの実感が伝わってきている。昨年の休校期間学校に来られない時期と違って、心の成長も戻ってきている。ただ、一部には学校に来づらいう児童もいるであろうから、その状況を含めて知りたい。→コロナが理由の自宅待機の数減っているが、コロナの理由を含めてその他の理由で複合的に学校に来づらくなってしまっている児童はいる。来づらさがある児童が通える場所があるなら、そこで良いから通ってほしいなと願っている。
- ・教職員と児童がほぼ一致している。
- ・挨拶はするように指導していますか？挨拶しない児童が気になります。→「弱いです。コロナで大きな声での挨拶を励行しにくくなりました。続けられなくなりました。」
- ・児童は良く挨拶してくれていますが、私自身は、挨拶がかえってこなくても構わないと思っています。挨拶しなさいという教育はしたくない。子どもたちが自発的に挨拶できるまで待てば良いなと思っている。
- ・教職員アンケートの(4)が、3.71という高い数値を打ち出しているが、何か根拠があるのだろうか？実感があるのかなあと感じる。子どもたちは相談できているってことなのでしょう？
→子どもに同じ質問が無いのが残念。教師感覚と児童の感覚がずれることがあるので注意が必要。
- ・学校の中で、「仲の良い友だち関係」を目指すときに、学級づくりにおいて、小グループがいくつか存在し、優劣のような「活発」なグループと「控えめ」なグループが出来ると思います。その間で、いじめだ排除だといった行為が生まれたら、学級づくりの再編が必要と思いますが、どのように先生方は解決していく手法があるのでしょうか。→一般的には、クラスで共有し事実をしっかり受け止めることが重要。はずしが分かったときに、子どもたちが事実をしっかり受け止められると、根が純粋で素直な児童が多いので、子どもたち自身に解決策を考えさせて、立ち向かわせる手法等がある。
(次号パート2にて、残りの部分は紹介させていただきます。)

◆◆ 11月は各学年で、計画通り学年行事等を実施できました。 ◆◆

- (1) 5日は、全校体制での避難訓練を実施しました。児童は混乱なく避難できましたが、教員側は反省があり、やって良かったと感じました。
- (2) 5年生宿泊行事は、9日・10日と「上郷森の家」で無事宿泊体験ができました。大雨もうまくかわしながら様々なプログラムを実施できました。私は、夜の11時半頃顔を出して、就寝の様子を確認してきました。まだ眠れない児童もいましたが、楽しい経験を積めたようです。



(3) 4年生の遠足は、10日に「かわさき宙と緑の科学館」に行ってきました。プラネタリウムを体験したり、民家園で古民家を見たり、見聞を深めてきました。波が高く乗船体験はできませんでしたが、楽しく過ごせたようです。

(4) 11日には、「音楽鑑賞会」が開かれました。影絵と音楽を組み合わせた素敵な体験ができました。「100万回生きたねこ」には、ぐっとくるものが児童にもあったのではと推察しています。

(5) 12日は、6年生がふれあい体験事業「いのちの話」を体育館で受けることができました。一人ひとりがいのちの大切さについてしっかりと向き合える良い体験ができたと思っています。

(6) 13日は、3年生がズーラシアに遠足に行きました。動物園なので笛や拡声器を使えない行事ですが、児童の聞く姿勢も良く、楽しい動物園体験をしてきたようです。



- (7) 18日は、低学年が八景島シーパラダイスに遠足に行きました。当日は小学校団体14校という情報も入り、間違っただけで他校についていけないと心配もしましたが、無事楽しく実施して帰ってきました。バス6台というのは今までの最高記録ですが、学校でも混乱はなく皆様のご協力に感謝いたします。



- (8) 22日は教育委員さんの学校訪問と、午後からは、日産財団の理科教育助成にかかる、理科の研究授業発表を行いました。午前午後と学校の授業の様子を参観していただき、児童が落ち着いて授業を受けている様子や、教科内容に興味を持って学習する姿や、Chromebookを使いこなしている様子を見ていただくことができました。



◆◆ 学校での感染再拡大は防いでいきたいと願っています。まだマスク着用をお願いしております。 ◆◆
いまだに第6波への警戒を解いていないこと、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。